



三重大学医学部看護学科 設置10周年を記念して

三重大学長 豊田 長康

十年一昔という言葉もありますが、三重大学医学部看護学科が設立されて10周年の節目を迎えることは、たいへん感慨深いものがあります。本学看護学科の歴史をひも解くと、それは、まさにわが国の看護師のレベルアップと地位の向上を目指した、長い苦闘の道りであったことがわかります。

三重大学医学部が、その前身である三重県立医科大学であった頃、昭和23年（1948年）に、「三重県立医科大学附属医院厚生女学部（甲種看護婦養成所）」として開校」と記載されています。その後、昭和35年（1960年）には「三重県立大学医学部付属高等看護学校」となり、昭和49年（1974年）の県立大学の国立移管に伴って、「三重大学医学部附属看護学校」となりましたが、この間、このいわゆる“高看”は、この地域に優秀な看護師を供給するという役割をずっと果たしてきました。

昭和63年（1988年）に、関係者の並々ならぬご尽力により、念願の「三重大学医療技術短期大学部」が併設されましたが、ここで初めて、三重県の看護学が高等教育の仲間入りをするようになったわけです。そして、その9年後の平成9年（1997年）に「三重大学医学部看護学科」が設置されました。看護学科設置に当っては、わが国における全国的な看護教育のいわゆる“4大化”の流れの中で教員の争奪戦となり、担当者は西走東奔しましたが、基準を満たす看護教員の確保は並大抵の苦労ではありませんでした。

そのような産みの苦しみの中から実現した“4大化”でしたが、その後の看護学科教員の向上心と努力により、平成14年（2002年）に、三重大学大学院医学系研究科に看護学専攻（修士課程）が設置されるに至り、名実ともに、看護学科が他の学問領域と対等の高等教育機関になりました。

看護学科設置10周年を迎えましたが、この節目は、これから看護学科がさらにレベルアップを目指していこうとする踏み切り台であると思います。現在のわが国の医療の現場では、医療の高度化がますます進む一方で、地域医療の崩壊が顕在化するなど、たいへん不透明な状況になっています。しかし、そのような状況の中でこそ、有能な看護師を求め、声がますます高まり、看護師の地位をさらに向上させる絶好のチャンスでもあると思います。

このような地域社会の要請に応えられる、いっそう質の高い看護師の養成を目指して、三重大学医学部看護学科が、今後ますます充実・発展することを心から祈念いたします。